

グアムで見て、聞いて、感じて、学んだ5日間 ～We are all one～



グアム州副知事を訪問しました

笠松町では、国際感覚をもった人材の育成をめざし、次代を担う中学生を対象に、平成5年から青少年海外派遣事業を行っています。今年も、10月9日から13日までの4泊5日の日程で24人の中学生をグアム（アメリカ合衆国准州）に派遣しました。

派遣日初日に飛行機が機械トラブルのため13時間遅れるハプニングもありましたが、平成27年に姉妹校提携を締結したイナラハン・ミドル・スクールでは、歓迎の歌で出迎えられ、現地の生徒とペアになり、ヤシの葉細工やココナッツペインティング体験、英語で行われている授業見学、グアムの伝統的な踊りのチャモロ・ダンス、学校給食などでグアムの文化を体験するとともに、折り紙をはじめとする日本文化の紹介をするなど交流を図りました。

また、グアム州知事公舎を訪れ、テノリオ副知事を表敬訪問し、日本国総領事館では尾形首席領事より領事館の仕事に関する貴重なお話を伺いました。

太平洋戦争戦没者慰霊塔では、現地の戦没者慰霊ボランティア団体のピースリング・オブ・グアムの高木会長に平和講話をいただくなど、貴重な体験をしました。

現地大型スーパーでの買い物、島内最大のショッピングセンターでの昼食など、日ごろ学んだ英語を活かして会話をしたり、グアムの透き通った海で野生のイルカウォッチングやシュノーケリングを楽しんだり、日本では経験することができない5日間を過ごしました。

それでは、参加者による海外研修の報告を一部紹介します。



姉妹校提携先のイナラハン・ミドル・スクールの生徒との集合写真



イナラハン・ミドル・スクールでは互いの国の文化などを紹介し合いました



グアムの日本国総領事館を訪問しました



太平洋戦争戦没者慰霊塔での平和講話

成長した自分

笠松中学校 3年5組 武藤 未憩

私は今回を含め2回このグアム研修に参加しました。前はあまり積極的に話すことができず、会話が続きなかつたり、通じなかつたりする度に自信を失っていききました。日本に帰国した後、なんで諦めずにやり切れなかつたんだろうと悔しさが残ったのと同時に、協力してくれた両親、町に申し訳ない気持ちになりました。それから英語の勉強に特に力を入れて頑張ってきました。そして今回の2回目のグアム研修にのぞみました。

イナラハン・ミドル・スクールに向かう時は上手に話せるか不安でしたが、歓迎の歌を聴いて、これだけ歓迎してもらっているんだから、自分も変わろう。という気持ちになりました。会話や交流をするなかで相手の言っていることが分からなかつたり、どうやって返せばいいのかわからない時もありました。それでも、理解しようと聞き返したり言葉だけでなく身体を使って表現をしました。そこで会話がはずんだりした時は嬉しかったし、なにより楽しかったです。自分は前より成長したという実感が自信へとつながり、前まではできなかった自分から話しかけることができるようになりました。

また、州副知事さんに話をうかがった時、私は「壁にぶつかった時どう乗り越えていくか」と質問しました。すると、州副知事さんは「一つ一つ解決していくこと」「長と副が協力して同じ力を発揮すること」と答えてくださいました。副だからとただ困っている時だけ手伝うのではなく、常に同じことを理解しておくことが大切だと思いました。また長でも副に声をかけることも大切だと思いました。

一番心に残っているのは、「課題をどう解決するかだけでなく、なぜこの課題が生まれたのかそこも考える」ということです。今までならば課題を出して、どうやって成果として変えていくかのみを考えていましたが、少し考えを変えて、向き合うことを学びました。

今回の研修は、いろんな場面から自分をいい方向へ成長させてくれました。前の悔しさをバネに、日々の積み重ねを発揮しようと積極的に声をかけられたこと。3年間学校行事として、宿泊研修をやってきた意味。グアムに行かないとわからない戦争という過去から、平和を考えること。研修そのものに意味があります。しかし最大の研修の意図は、グアムで学んだことを持ち帰って、これからの学校生活、地域での笠中生としての姿などに活かすことだと思います。行って終わりではなくこれからの更なる成長に繋げていきたいです。

グアムで学んだこと

笠松中学校 2年2組 馬淵 愛菜

私は今回初めて外国に行きました。学んだ事も多くありました。

現地の中学生との交流で、私自身はすごく緊張していましたが、相手の子はすごくフレンドリーで少しびっくりしました。ボーリングでは、お互いのターンが終わった時にリアクションをしたり、ハイタッチをして楽しく英語で関わりました。実際にイナラハン・ミドル・スクールに行って自分達の学校との違いを多く見つける事ができました。バスケットボールとかバレーボールをする中で、同じグループ以外の子とも盛り上がりスポーツできました。

今まで自分が学んできた英語を使って会話をすることで少し自信ができました。

また、私は特に副知事さんの言葉が印象的だったと思います。「右手でも左手でもコップをつかめられるように常に取り組む」や「立ち去る、見ないふりをするのは簡単。それを乗り越えたら夢へたどり着ける」この2つを聞いて私はさすがだなと思いました。私たちは例えばテストでも直前になって取り組む人もいます。テストとか行事では、日が決まっているけれど、急に任せられたりした時、対応に困ると思います。日常的に、仕事などを進めるのは当たり前だけれど、とても難しいと思いました。諦めたりするのは簡単だけれど、それは自分のためにも周りのためにもなりません。努力する事で夢や目標はつかめるのだと思いました。

この他にも今回の青少年海外派遣事業で学べた事は多くあります。今回学べた事を今度は特別な場でも日常で力を発揮できるようにしなければ、笠松町代表としてグアムに行った意味はなくなってしまうのではと思います。なので私はまずは英語をもっと自信を持って取り組んで行けるようにしたいです。まず少しずつでもいいと思うので、もっと自分が成長していくために、今自分に何が出来るのか、何をすべきなのかを考え、行動していきたいです。

また、今までとは違う視点でも見ていけるようになったらいいなと思いました。

学校の中以外でも、地域の人へのあいさつにも気をつけて活かしていきたいです。